

教育振興運動推進プラン(2024～2028)

令和7年度 全県共通課題実践事例

令和8年3月

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課

2 「体験活動の充実」実践事例

タイトル	実践区等名	ページ
近所の偉人たちマップ作り～下ノ橋町内会～	盛岡市第Ⅴ地区教育振興協議会 杜陵小学校区	23
地域人材や資源、自然を生かした体験活動を取り入れた「滝沢魅力学」の推進	滝沢市一本木小学校教育振興協議会	24
道の駅あねっこ盛り上げ隊	雫石町御明神小学校実践区	25
一方井小学校 農作業体験学習	岩手町一方井中学校区	26
矢巾町における地域・文化とのふれあい～世代間交流事業～	矢巾町教育振興運動推進委員会	27
「遠野人と語ろう」テーマ：「遠野の未来」	遠野市立遠野中学校	28
放課後子ども教室「はばたき子ども広場」	北上市黒沢尻西地区地域学校協働本部	29
農作業体験（お米づくり）	西和賀町教育振興運動推進協議会志賀来実践班	30
子どもたちの健やかな成長を願って「滝's」（たきっず）	一関市滝沢・弥栄地区実践区	31
家庭教育学級開催事業（英語スクール）「英語体験教室」	大船渡市	32
住田町子ども会育成会連絡協議会・夢かがやく上有住「みんなのイルミネーション2025」	住田町上有住地区	33

タイトル	実践区等名	ページ
大槌町立吉里吉里学園 3年生ふるさと科「ふるさと探検」出前講座授業	大槌町	34
3年総合的な学習の時間「大好き 新里」	宮古市新里中学校区実践協議会	35
「地域の産業体験を通し、働くことの意義について考えよう」（1年生産業体験）	宮古市新里中学校	36
地域全体で子どもを育てよう	山田北地区実践協議会	37
人を育てる田野畑の学び－教育が地域をつくる－	田野畑小学校・田野畑中学校・田野畑村教育委員会・田野畑村地域学校協働活動推進本部	38
学ぼう！有芸の食	岩泉町有芸小学校教育振興運動実践協議会	39
文化・芸術活動 ナニヤドラマヤ伝承活動	久慈市来内地区教育振興協議会	40
令和7年度実践区リーダー研修会	洋野町教育振興会	41
放課後子ども教室のだキッズセンター「おどりにちゃれんじ」	野田村 野田小学校	42
野田村生涯学習大会「南部大黒舞体験」	野田村	43
放課後子ども教室 チルドレンスイーツマーケット	普代村	44

2 「体験活動の充実」実践事例

タイトル	実践区等名	ページ
親子でパトロール!	二戸市二戸西小学校実践区	45
雑穀研究「エゴマを育てよう」	軽米町軽米小学校実践区	46
九曜塾 九戸村の良さを学ぶ自然体験	九戸村九戸小学校区	47
一つになるキーワードは両校の宝	一戸町一戸南小学校区	48
4泊5日程度の中期自然体験型の事業「水と緑のフレンドシップ」	県立県南青少年の家	49
1泊2日の自然体験・創作・交流体験型事業「自然ワンダーランド」	県立県南青少年の家	50
親子対象の自然体験または創作・交流型事業「かるがも親子体験教室」～かるがも親子ファミリーキャンプ～	県立県南青少年の家	51
放課後子ども教室指導員・児童クラブ職員等合同研修会(一関市)	県立県南青少年の家	52
誰一人取り残さない学びの保障	県立陸中海岸青少年の家	53
体験活動の要「五感」を耕す 「たき火」活動のススメ	県立県北青少年の家	54
県北アウトドアアカデミー発足	県立県北青少年の家	55
主体性をはぐくむ体験フィールドづくり	県立県北青少年の家	56
市町村との協働による体験活動の充実	県立県北青少年の家	57

タイトル	実践区等名	ページ
ドラマチック海遊塾	県立野外活動センター	58
就労体験実習	県立図書館	59
たいけん教室～みんなでためそう～	県立博物館	60
博学連携事業(県立盛岡峰南高等支援学校)	県立博物館	61
博学連携事業(県立盛岡青松支援学校)	県立博物館	62
美術普及事業(1)スタジオプログラム	県立美術館	63
美術普及事業(2)美術プログラム<実技体験講座> 来館写対応事業(3)団体プログラム	県立美術館	64

◆実践事例の見方◆ (※レイアウトが変更になっている場合もあります。)

【実践区名】

【3 取組内容】

(実施した具体的な活動やプログラムの詳細)

【1 タイトル】

事例の名称やテーマ

【2 背景・目的】

取組の背景や目的、どのような課題に対応するためのものか

【4 実施体制】

参加者(学校、保護者、地域住民等)の役割や人数等

【5 成果】

活動の成果や得られた効果

【6 課題や今後の展開】

活動の課題や次の取組への展望等

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【盛岡市 第V地区教育振興協議会】

杜陵小学校区

近所の偉人たちマップ作り
～下ノ橋町内会～

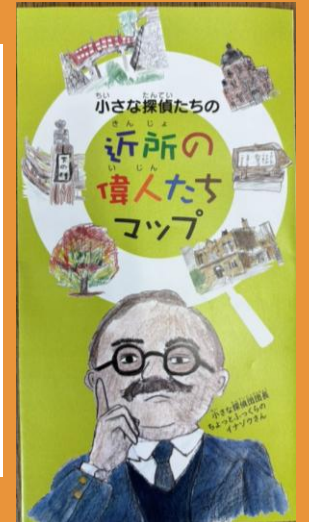
子どもたちが地域の方と一緒に、地域の歴史や偉人について学ぶ体験を通して、地域への愛着を深めることができるようにすることを目的として取り組みを行いました。

参加者：下ノ橋町内会
保護者
4年生児童

【取組内容】

- 町内会の方の案内で、子どもたちが地元出身の新渡戸稲造の他、地元ゆかりのある偉人たちの功績やゆかりの場所について、実際に地域を歩いてフィールドワークを行った。
- 夏休み期間中に有志の子どもが集まり、町内会の方と一緒にパンフレットの挿絵を描く活動を行った。
- 町内会の方を中心に「小さな探偵たちの近所の偉人たちマップ」パンフレットが作成され、街の紹介等に活用されている。

フィールドワークの様子



「小さな探偵たちの近所の偉人たちマップ」パンフレット

完成したマップ

【成果】

子どもたちの感想からは、「近所だけど初めての場所にも行けて、偉人の人生を詳しく知ることができた。」「今度はマップを見ながら町を歩いてみたい。」など、地域のよさに目を向け、愛着を深める姿が見られた。また、地域の方から話を聞くことで、子どもと地域の方とのつながりが生まれ、子どもたちが地域で安心して生活したり学んだりすることにつながった。

【今後の展開】

「近所の偉人たちマップ」は校内に掲示し、他学年の子どもも学ぶことができるようにしている。地域の偉人について知ることで、子どもたちが地域のよさに気付くことにつながり、今後、さらに学校・家庭・地域が連携しながら、体験活動を通して子どもの学びを充実させることが期待できる。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

滝沢市

一本木小学校教育振興協議会

地域人材や資源、自然を生かした体験活動を取り入れた「滝沢魅力学」の推進

生活科・総合的な学習の時間と関連させた体験活動の充実を通して、「郷土に対して主体的にかかわろうとする心や態度」「夢に向かって物事に取り組む姿勢」を育む。

一本木小学校教育振興協議会(体験活動の協議と支援)

- 1年・滝沢里山研究会
- 2年・陸上自衛隊岩手駐屯地
- 3年・岩手県立盛岡農業高等学校
- 4年・滝沢古文書解読研究所
- 5年・国立岩手山青少年交流の家
- 6年・地域の方々

学年	単元(体験活動分類) 関係団体等	復興教育 キャリア教育	活動内容
1年	「きせつとなかよし」(自然体験) 滝沢里山研究会	2 自然との共生 豊かな心	・研究林探索 ・お面づくり ・焼き芋 
2年	「えがおのひみつ」(社会体験) 陸上自衛隊岩手駐屯地	11 ボランティア・ 救援活動 豊かな心	・施設見学 ・簡易救急体験 
3年	「マイりんごを育てよう」 (社会体験) 岩手県立盛岡農業高等学校	12 自分と地域社会 健やかな体	・りんご栽培体験 ・親子ジャム作り 
4年	「守ろう私たちの暮らし」 (文化的体験)(社会体験) 滝沢古文書解読研究所	17 自然災害の歴史 確かな学力	・大型紙芝居「お山が燃えている」鑑賞 ・イーハトーブ火山局・焼走り見学 
5年	「滝沢自然探検隊」(自然体験) 国立岩手山青少年交流の家	9 仲間とのつながり 豊かな心・健やかな 体	・鞍掛山登山・野外炊事 ・石造ウォークラリー ・キャンプファイヤー 
6年	「そば博士になろう」(社会体験) 地域の方々	12 自分と地域社会 社会を把握する能力	・そば栽培 ・親子そば打ち体験 

【成果】「滝沢魅力学」のもと地域資源を見直し、ここ数年で1・2年生の体験活動を新たに導入したことで、全学年において核となる体験活動が位置付き、6年間で「自然体験」「社会体験」「文化的体験」をすることができている。地域の教育力を生かした体験活動は、復興教育・キャリア教育としても位置付け。教振推進プラン計画期間中の「学校が行う体験活動に参加し、達成感や有用感をもった児童」のR7年度の目標値は87%であるが、本校児童は94%であった。また「読書が楽しい」と感じる児童は目標値90%を上回る95%であった。

【課題や今後の展開】「郷土に対して主体的にかかわろうとする心や態度」の育成のために、生活科・総合的な学習の時間と体験活動とを密に関連させる。相手意識をもちながら、思いや考えをアウトプットする活動を大切にする。また、学校が地域の方からご支援をいただくだけではなく、学校が地域のためになる双方向の関係性の有りようを模索する。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

栗石町御明神小学校実践区

道の駅あねっこ盛り上げ隊

【背景・目的】

地域にある道の駅を盛り上げる地域貢献と児童のキャリア教育として実施

【参加者】

児童、教員、地域の方々、地域企業、役場職員

【成果】

道の駅のDVDの作成やポスターの作成などを行い、道の駅の広告に協力した。児童は販売や流通など地域にある企業について学ぶことができた。

①キャラクター開発チーム



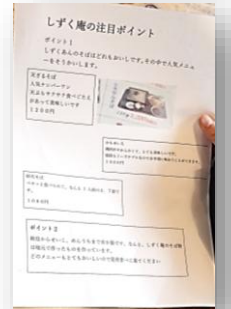
町の特産のねぎを使った商品や、ここでしか買えない新商品のドレッシングをPRしたいですね



②こびるキッチンポスターチーム



③しずく庵チーム (有)栗石ソバ産業



【課題や今後の展開】

一過性の事業に終わらず、地域の産業も巻き込んで継続的な活動にしていきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手町 一方井中学校区

一方井小学校 農作業体験学習

農作業体験を通して、生産者の苦勞や喜び、農作物のおいしさ、いのちの大切さを身近に感じてもらうほか、人間形成に最も重要とされる食の大切さを岩手町の優れた農作物を通して子どもたちに伝える。また、地域間と世代間の交流を深め、人づくり、地域づくりに発展させることを目的とする。

小学2・3・5年生（R7年度23名）
農事組合法人一方井地区営農組合
岩手町役場 農林課職員
JA新しいわて

学年ごとに異なる作物を年間を通して育てるプログラム。畑での作業だけでなく、作った作物を実際に食べてみる消費体験や、納豆・豆腐の加工体験なども実施し、様々な角度から岩手町の農作物について学べる内容となっている。



学年	体験内容
2年生	畑作体験（さつまいも） ① 苗植え作業 ② 収穫作業 ③ 消費体験
3年生	畑作体験（じゃがいも等） ① 種まき・苗植え作業 ② 収穫作業 ③ 消費体験 加工体験（大豆） ① 収穫作業 ② 加工作業（納豆・豆腐） ③ 消費体験
5年生	稲作体験（田んぼアート制作） ① デザイン作成 ② 田植え作業 ③ 稲刈り作業 ④ 消費体験

【成果】自分たちが普段食べている野菜や加工食品がどのように作られているのかを教わることで、食の大切さについて学べることはもちろん、地域との絆や郷土愛などの形成につながっている。また、地域住民と子ども達の交流の場としての役割も担っており、地域の活性化へと寄与している。

【課題】指導者の高齢化による担い手不足、子どもの人数減少に伴う開催規模の縮小などが懸念され、長年続いている一方井地区の特色ともいえる「伝統行事」「地域との繋がり」をいかに継承していけるかが今後の課題となる。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

矢巾町教育振興運動推進委員会

矢巾町における地域・文化とのふれあい ～世代間交流事業～

【目的】

園児が地域で活躍する多世代の姿に憧れを抱き、「将来の自分」を重ねることは、自己実現への意欲へと繋がる。同時に、地域の学生、大人には「地域の子を地域で育む」という当事者意識が醸成され、相互の成長を支え合う教育コミュニティの形成を期待している。

また、伝統文化にもふれ、地域の文化を愛する気持ちを育てることに繋がるもの。

【実施体制】

保育施設、中学校を中心とした各振興区、地域の方

【成果】

家族や保育施設の職員以外の大人と接することで、地域には様々な役割や多様な考え方、文化があることを園児は肌で感じて学ぶことができた。多様な人との交流により、思いやりの心が育ち、コミュニケーション能力の高まりにも繋がった。

【取組内容】

■ 保育施設の取組

- ・中学生の職場体験の受け入れによる園児と中学生との交流
- ・障がいのある方と園児の交流
- ・地域のお店で買い物体験をし、地域の人と交流
- ・地域の老人クラブとの交流（野菜作り、収穫、みずき団子作りなど伝統文化体験）
- ・地域の祭りで地元子ども会との交流



園児が聴覚障がいのある方と進んでコミュニケーションを取ろうとしていた。思いやりの心が育っていると感じた。

保育施設の 職員の声

高齢者など地域の方と関わる機会が増え、「優しい気持ち」が育つ交流ができた。

【課題や今後の展開】

地域住民、老人クラブの高齢化等の理由により、世代間交流の機会を持たずにいるところもある。また、地域によっては、交流の機会、体験自体を存続させることに壁があるという現状があり、継続的な地域交流のための工夫が必要。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【岩手県遠野市】 遠野市立遠野中学校

【「遠野人と語ろう」】 テーマ：「遠野の未来」

【背景・目的】

- ・ コミュニティ・スクールの学校部会の協議から生まれたキャリア教育事業である「遠野人（とおのびと）学習」の一環。1年次には「遠野人から学ぼう」と題し、遠野に住み、様々な分野で活躍する地域の大人からの職業観や人生観、郷土愛を育むための講話を実施。2年次には「職場体験」を通じて実際の職業について学ぶ。そして、今年度初の試みとして「遠野人と語ろう」と題し、生徒と様々なジャンルの職業の地域の大人とが遠野の未来について語り合うことを目的に開催。
- ・ 様々なジャンルで活躍している地域の大人と中学生が語り合うことで、それぞれが自分事として捉え、主体的に活動できるきっかけとなることを目的としたもの。

【実施体制】

【参加者】 地域住民16名、生徒21名（1年から3年までの希望者、うち3年生の特色入試受験者は必須）

【ファシリテーター】 地域学校協働活動推進員、CS担当者

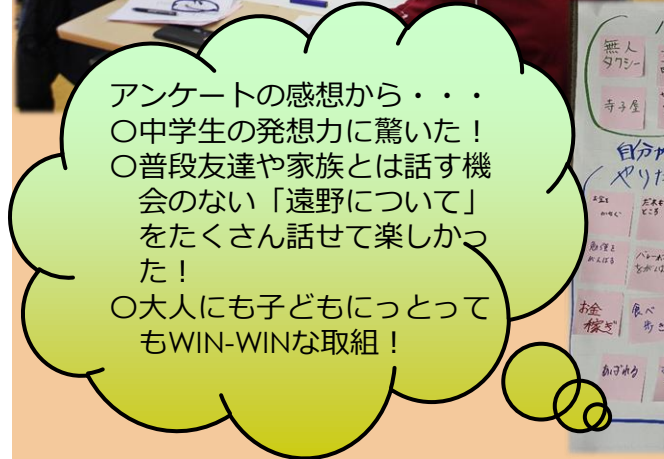
【実施までの流れ】

大人の参加者について、学校長の人選をもとに、コミュニティ・スクールの学校部会の場でどんな職業の大人と生徒が語り合うのが良いか等を協議し、地域学校協働活動推進員が調整をした。当日は、他の学校区の地域学校協働活動推進員と行政のCS担当者とともに運営を行った。



【取組内容】

キャリア教育事業「遠野人（とおのびと）学習」の新たなステップとして、地域の大人と生徒が「遠野の未来」や「どんな遠野になってほしいか」について語り合った。対話の中で遠野の良さや課題を発見し、地域の大人も生徒も自分事として捉えることで、遠野の未来のために何ができるのかをともに模索することができた。



アンケートの感想から・・・
○中学生の発想力に驚いた！
○普段友達や家族とは話す機会のない「遠野について」をたくさん話せて楽しかった！
○大人にも子どもにとってもWIN-WINな取組！

「理想の遠野を実現するためにやってみたいことは??」

ザ・JK通りを作るのはどうかな！
スポーツ居酒屋は実現できそう！
きのご狩りツアーいいね！

【成果】

- ・ 中学生の自分の特技を生かしたイベントや、既存の企業等が連携して実現可能な住民交流の場づくりなど、多くのアイデアが生み出された。
- ・ 遠野で活躍している大人が、自身の仕事についても中学生に伝えることができ、中学生もまた自分の将来像について考える機会となった。
- ・ 未来を担うこどもたちが何を思うのかを知るきっかけとなり、今後の社会関係資本の拡大にもつながる取組であると感じた。

【課題や今後の展開】

- ・ 参加生徒数や職業ジャンルの拡大も今後視野に入れていくとともに、地域と学校の連携強化のため、教職員の参加も促したい。
- ・ 出た意見を実現に向けてどう取組を進めていくか、CSの仕組みを活用した具体的な連携方法を検討していく必要がある。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

北上市黒沢尻西地区地域学校 協働本部

放課後子ども教室

「はばたき子ども広場」

放課後子ども教室のプログラムとして、地域住民の参画のもと、地域と学校が連携協働して様々な体験活動、交流活動の機会を定期的・継続的に提供することを目的として実施。

対象者：児童

安全管理員：地域の方々

※黒沢尻西小学校が体育館等の学校施設を提供し活動を実施

【取組内容】

年間約70回、安全管理員が見守る中で活動を実施している。「消防ふれあい体験」「ショートテニス体験」「季節の工作」「謡曲の練習・発表」等、地域住民や諸団体の協力を得ながら、子どもの体験活動の充実を図っている。また平日は、活動中に宿題に取り組む子どもたちも一定数おり、家庭学習の充実にもつながっている。



【消防ふれあい体験】



【ショートテニス体験】



【宿題に取り組む様子】

【成果】地域の諸団体の方々の協力を得て実施した活動が多く、様々な体験を通して子どもたちの心と体の成長につながる活動ができた。安全管理員の多くが高齢世代であるが、見守りをしながらこの「はばたき子ども広場」が子どもたちとの交流の場にもなっている。

【今後の展開】今後は、中高生や専門学生等にも活動に関わってもらい、若者世代も含めたより幅広い多世代交流の場、相互の学びの場としていきたい。それによりボランティア不足の解消、ひいては地域における担い手育成につなげていきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

西和賀町教育振興運動推進協議会

志賀来実践班

農作業体験（お米づくり）

現代社会において、農業の担い手不足が深刻化している。そこで、子どもたちに現代の農業を知ってもらい、農業の楽しさを実感してもらい興味をもってもらうことを目的に実施。

【実施体制】

- ・対象：小学生・保護者 場所：西和賀町沢内字新町
- ・地域 17名
- ・児童 10名
- ・保護者 8名

【成果】

体験を通して、子どもたちに農業の楽しさを知ってもらうことができた。
子どもたちのために支援してくださるボランティアさんの存在意義を実感してもらうことができた。

【取組内容】

農業体験を通して、生産する難しさと食の大切さを学ぶとともに、人やもの、自然に直接触れる体験をすることによって、自他の尊重の意識や他者への思いやり、実社会への興味・関心をもつきっかけとしている。地域のボランティアの方々力を借りて、昔ながらのお米づくり体験を行う。



★農業体験★

- ・手植えによる稲作体験！
- ・米の旨味を引き出す八セがけ体験！

餅つき・餅まきを行いました！



【課題や今後の展開】

学校や子どもに関わる地域住民をさらに増やしていくこと。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

一関市 滝沢地域振興協議会 滝沢・弥栄地区実践区

子どもたちの健やかな成長を願って 「滝's」(たきっず)

長期休業中の子どもたちは、市中心部と違って、遊ぶ場所や学習場所が限られており、友だち同士の触れ合いが少なくなる。そこで、市民センターを活動場所として、学び、交流する場を提供し事業を推進していく。

一関市滝沢地域の小中学生を対象

【取組内容】

長期休業中に開催したプログラム

昨年度までの登録制教室「滝沢探検隊」から、登録不要に変更し、「たきっず」という名称にした。



第1回 「動物園に行こう！」



第2回 「みんなでお菓子作り」

【成果】

滝沢・弥栄地区は、真滝幼稚園、滝沢小学校、弥栄小学校、一関東中学校、滝沢市民センター、弥栄市民センターの6実践区である。滝沢市民センターの当事業をとおして、子どもたちの観察力、自分で考え行動する力、食に対する興味・関心、思いやりの心などの向上につながった。

【今後の展開】

たくさん子どもたちに参加してもらいたいが、施設問題等で限りがある。少人数企画として冬休みには定員10名で「おにぎり研究会」を試験的に開催し、満員となった。今後も体験活動を充実させる実践を継続していきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

大船渡市

家庭教育学級開催事業（英語スクール）

「英語体験教室」

【趣旨】

親子が共に基礎的な英語の学習や異文化交流を体験することを通じて、自己肯定感や自立心を高め、社会を生き抜く力を育むことを目的とした。また、国際化の進展に対応し、次代を担う子どもたちの国際コミュニケーション能力の育成や、国際理解の促進に資するため、本事業を実施した。

【対象】

- ・未就学児（年中・年長）及び保護者
- ・小学1・2年生及び保護者

【成果】

親子で基礎的な英語や異文化に触れる体験を通して、子どもが安心して参加し、楽しみながら表現する姿が見られた。親子で共に学ぶ機会となり、自己肯定感や新しいことに挑戦しようとする前向きな意欲を育む取組となった。

【取組内容】

「英語体験教室」

日時 令和7年6月21日（土）

①年中：9:30～10:30

②年長：11:00～12:00

講師 佐藤英会話講師

参加組数 ①6組 ②6組

「第2回英語体験教室」

日時 令和7年11月15日（土）

①年中・年長：9:30～10:30

②小学1・2年：11:00～12:00

講師 佐藤英会話講師

参加組数 ①9組 ②4組



親子参加型の講座として年2回開催し、各回テーマを設定した。歌やゲーム等を取り入れながら、基礎的な英語表現や異文化に触れる内容とし、家庭でも継続して取り組めるよう、親子で歌や会話の練習を行うなど、触れ合いを重視した活動を実施した。

【今後の展開】

体験のねらいをより明確にし、発達段階に応じた内容構成とすることで、子どもの成長や保護者の学びにつながる体験活動の一層の充実を図っていく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

住田町 上有住地区

住田町子ども会育成会連絡協議会・夢かがやく
上有住

「みんなのイルミネーション2025」

子どもから大人まで、楽しみながら交流できる場をつくるとともに、小中学生が活躍できる場を提供し、リーダーを育成することを目的として取り組んだ。

対象者：町内小学生児童とその保護者、中学生ボランティア、夢かがやく上有住（上有住地区小さな拠点事業）、子育て連担当者等（81名）

【取組内容】

町子ども会育成会連絡協議会と夢かがやく上有住とで連携し、イルミネーション事業を実施

①小学生がイルミネーションに使用するペットボトルに色付け

②①を回収して保護者と地域でイルミネーションを設置

③「みんなのイルミネーション2025」として、デコレーションケーキ作り、セルフカフェ、輪投げゲーム、イルミネーション点灯、ハンドベル演奏等を実施。中学生ボランティアが小学生をサポートした。



【成果】子ども、保護者、地域の方に行政も交え、合同で事業を実施することで、世代間交流が生まれ、コミュニケーションを取り合いながら活動することができた。地域の活性化につながり、中学生のリーダー育成の場ともなった。

【今後の展開】地域の活動に親が参加するきっかけになり、子どもを通して地域の活性化にも繋がっている。今後も同様の取り組みを継続していきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

大槌町

大槌町立 吉里吉里学園

3年生ふるさと科「ふるさと探検」出前講座授業

全体テーマを「吉里吉里のよいところをさがそう～れきし・しぜんへん～」と題し、全3回に分け地域の良さや特色について必要な情報を収集・整理・まとめる事を通して、自分たちの生活との関わりを考え、地域の一員としての自覚を持てるようにする。

参加者：大槌学園 3年生(8名) 教諭(2名)

講師：①② 大槌町文化財専門員 菊池 玄輝

③ NPO法人吉里吉里国 代表 松永いづみ

活動内容

①	令和7年 9月19日 (金)	地域の自然について、名前の由来などを学び、実際に現地に赴き縄文土器が発掘された場所を見学、理解を深める。
②	令和7年 9月25日 (木)	地域の考古学遺跡を学び、実際に土器を製作する。
③	令和7年 12月2日 (火)	前回製作した土器を焼くために、薪割をする。 地域の山から集めた木を生活にかかしている実感を持つ。薪割から始めることで木を使った昔の暮らしを体験する。 講師は地域のNPO法人にお願いし土器も焼いてもらいました。



【成果】

昨年からの授業の一環として出前講座を実施しており、自分達の住んでいる地域の文化や歴史を知るきっかけとなっている。普段気が付かない自然や、薪割など昔の生活の一部を体験することが出来た。木は町内の間伐材を使用しているため、林業の一部も知ることが出来た。

【課題や今後の展開】

吉里吉里学園 3年生ふるさと科は2年目、大槌学園 6年生ふるさと科は初めて授業の一環として出前講座を活用していただいた。次年度以降も継続していただく事で地域の特色について体験しながら学ぶ機会の一助になれば良いと思います。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

新里中学校校区実践協議会

3年総合的な学習の時間

「大好き 新里」

自分たちが住む新里地区のよさを発見・体験し、発信する活動を行う。

参加者 3年児童13名及び担任
地域学校協働活動推進員
閉伊川漁業協同組合職員6名

【取組内容】

【期日】令和7年9月30日(火) 9:30~11:30

【場所】湯ったり館そば閉伊川河川敷

【内容】地域学校協働活動推進員の連絡・調整により、閉伊川漁業協同組合の稚魚放流事業に3年生が参加させていただき、稚魚放流と築場漁の体験をさせていただくことができた。



【5 成果】児童は、今回の体験によって自分たちが住む新里の川のきれいさや稚魚放流の意義について知り、今後も伝統漁法を残していきたいという思いをもつことができた。

【6 課題や今後の展開】稚魚放流や築場漁体験以外にも、閉伊川漁業協同組合が新里地区で行っている事業について知る機会を設定し、河川の恵みを得てきた故郷の人々の生活や願いへの学びを深めていきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

宮古市 新里中学校区実践協議会

新里中学校 実践事例

「地域の産業体験を通し、働くことの意義について考えよう」(1年生産業体験)

キャリア学習の一環として、自分達の住む地域の産業を体験し、地域の特徴や働くことの意義を学ぶために実施しました。

対象者：生徒

実施協力：学校・地域ボランティア

地域学校協働本部推進員

【取組内容】

キャリア学習プログラム

・3年間を通し、自分の生き方やそのために今できること、つけるべき力について学ぶ

1年生：「地域の産業体験を通し、働くことの意義について考えよう」

新里での産業体験

2年生：「盛岡の上級学校訪問を通し、将来の生き方について考えよう」

盛岡での宿泊研修

3年生：「首都の職業を学び、将来の生き方について考えよう」

東京での修学旅行

1年生 産業体験学習

○5月：ブロッコリー農家での農業体験

○10月：養魚場での漁業体験



地域学校協働推進員から推薦いただいた和井内のトラウトサーモン養魚場にて、給餌や水槽の清掃体験を行った。緑に囲まれた新里でなぜ「漁業」が求められているか等、地域産業の特色について学びを深めた。

PTAより推薦のあった刈屋のブロッコリー農家(地元の青年農業家)にて、収穫体験を行った。新里地区で盛んな一次産業のことや、仕事観、郷土愛についてお話いただき、貴重な学びとなった。

【成果】生徒は地域の特色について改めて理解を深めるとともに、郷土への愛着を深めている様子が伺えた。また、地域の方々の働く姿から、将来の自分の生き方について考えを深めることができた。

協力いただいた農家や養魚場からも「中学生に仕事を体験させることはやりがいもあり、自分達の仕事を見つめなおすことにもつながる」との言葉をいただいた。地域の活性化にもつながる活動になっていると感じている。

【今後の展開】仕事の体験をするだけでなく、中学生が地域の方と一緒に考え、産業の発展に貢献する活動や発信を展開してみたい。(中学生にとって、より実践的なキャリア学習プログラムの開発)

また、協力いただける地域の産業を増やすことで、さらなる地域の活性化を図りたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

山田北地区実践協議会

【1 タイトル】

地域全体で子どもを育てよう

【2 背景・目的】

山田北地区の児童生徒の心身の健全な成長を願い、五者（児童、家庭、学校、地域社会、行政）の連携を図りながら地域全体で青少年の健全育成を図る活動を展開する。

【4 実施体制】

対象者：児童生徒、保護者、
地域の方々

【5 成果】

各活動において、子どもたちに自分たちの住んでいる地域を知り、地域の方々と交流することで親睦を深めることができた。また、地域に根付いた行事を通し、風習・文化を継承していくための取り組みを行うことで、より深い地域理解を図ることができた。

【3 取組内容】

年間7回の体験活動の実施。
子どもたち、その保護者、地域の方々が交流し、地域全体で子どもを育てるという趣旨に合った、伝承活動・交流活動が行われた。



活動日	活動内容	活動種類
6/22	ピザ作り&野外炊飯	交流活動
7/21	海洋教室	地域理解活動
夏休み	花飾り作り	伝承活動
11/8	カレー作り	交流活動 ※キャンプの予定を変更しカレー作りとなった。
12/27	工作体験	交流活動
1/1	餅つき	伝承活動
1/21	みずき団子作り	伝承活動

【6 課題や今後の展開】

本来予定していた活動の日程や内容を変更しなければならぬ活動があったが、変更後の活動においても柔軟対応でき、満足いく活動となった。今後においても、地域全体で子どもを育てるといった基本的な方針に則った活動を展開していく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

田野畑小学校・田野畑中学校
 田野畑村教育委員会
 田野畑村地域学校協働活動推進本部

【人を育てる田野畑の学び】 —教育が地域をつくる—

ふるさとに誇りと愛着をもった人間性豊かな人材の育成を目的として、小・中学生を対象に「田野畑学」を展開している。その中の取組として様々な体験活動を実施している。

対象者：児童・生徒・地域住民
 ※地域学校協働活動として、学校と調整のうえ村内の団体又は地域住民へ協力を要請

【成果】
 主に一次産業及び郷土料理づくりの体験を実施しているが、地域の方々の協力により、地域・年代を問わず交流を楽しみながら体験活動を行い、児童・生徒の学びに繋げることができた。郷土への理解と愛着を深めることができた。

取組内容

- 「田野畑学」年間スケジュールに応じて、担当教員と地域学校協働活動推進員が打合せ
- 体験先の手配。必要に応じて協力者の募集
- 体験活動の補助
- アンケート等は実施せず、活動中または活動後の児童・生徒・協力者（地域住民）の反応・生の声に耳を傾け、次回の活動に活かしている。



【今後の展開】
 地域住民との関わりを増やしていくとともに、村内で活動している大学生との関りを強め、更に充実した体験活動を展開していきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

有芸小学校教育振興運動実践協議会

【1 タイトル】

学ぼう！有芸の食

【2 背景・目的】

豆腐作りを通して、有芸の食文化や伝統的な作り方を知り、地域の食について学ぶ。

【4 実施体制】

学校、保護者、地域住民

【3 取組内容】

大豆作りから豆腐作り、そして作った豆腐を食べるところまで、一連の流れを学校と地域が連携・協働し、地域の食について学んだ。

大豆作り	耕作、苗植え、収穫まで、地域の畑を借り、地域住民からアドバイスをもらいながら行った。畑じまいには、保護者に協力をいただいた。
豆腐作り	地域住民を講師に招き、地域の伝統的な作り方を学んだ。保護者にも参加を募集した。
試食交流会	高齢者学級と併せて開催し、豆腐試食を通して世代を超えた交流を行った。



【5 成果】

食べ物が自分の口に入るまでの過程や大変さを身をもってまなぶことができた。また、地域の伝統や食について学ぶことができた。地域ぐるみの活動にすることで地域の元気にもつながった。

【6 課題や今後の展開】

児童数や地域住民が減少するなかでも、持続可能な形を模索し活動を進めていく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

久慈市

来内地区教育振興協議会

文化・芸術活動

ナニヤドヤラ伝承活動

地域の伝統文化を学ぶことで地域の良さを再認識するとともに、文化の継承を目的として取り組んでいる。

参加者：児童、地域住民、学校

【3 取組内容】

「踊り」「太鼓」「唄」を、盆踊り保存会、老人クラブ、婦人会から指導していただいている。今年度は、運動会・ガタゴン祭り・ユネスコ賞受賞式・閉校式（3月）で披露。運動会でのナニヤドヤラは地域の方もみんな参加しての大きな「輪」となった。



【5 成果】 踊りや太鼓だけでなく、唄の伝承にも取り組んだ。地域の方に教えていただくことで地域の方との交流の場となり、また、子どもたちの地域を愛する心が育まれた。子どもたちからは「ナニヤドヤラを伝えていきたい」という声が聞こえてきた。学ぶだけでなく、繋いでいこうという意識が育まれたことは大きな成果であったと考える。

【6 課題や今後の展開】 来内小学校は今年度をもって閉校する。今後は地域の盆踊り保存会が主体となって活動していくことが決まっている。これからも地域主体で伝統の継承に取り組んでいきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【実践区名】

洋野町教育振興会

【1 タイトル】

令和7年度実践区リーダー研修会

【2 背景・目的】

全県共通課題である「体験活動の充実」の周知と取り組み奨励のため各実践区のリーダー等を対象に、様々な体験活動かた知識を深める。

【4 実施体制】

参加者82名（児童・生徒44名、保護者・教員26名、講師2名、B&G指導員6名、事務局7名）

【5 成果】

- ・ 地元にある施設で思い切り海洋スポーツ体験をすることができた。
- ・ 子どもたちも楽しく体験学習をすることができた。
- ・ 県北青少年の家、教育事務所社会教育主事、B&G指導員、事務局の全面協力により、安全に実施することができた。

【6 課題や今後の展開】

- ・ 全県共通課題の「体験学習の充実」のほか、「家庭教育の充実」なども視野に入れ、時間のリーダー研修会の実施を考えなければならない。
- ・ 今回は、地元で実施できる海洋スポーツ体験を中心に組み立てたが、ほかにもグリーンヒルおおのでの宿泊・簡易キャンプ、星空観察など、地元の施設や資源を使つての活動も子どもたちの体験としてはいいのかもしれない。
- ・ 外での開催となるとアンケートを書く時間・場所がとれないため、GRコードでの回答も可能としたが、やはり回答率が低くなるため、アンケートの回収方法を考えなければならない。



全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

野田村

野田小学校

放課後子ども教室のだキッズセンター

「おどりにちゃれんじ」

「野田音頭」を知らない子どもたちに踊りを伝えることを目的として実施

講師：三ツ甚句の会

(村芸術文化協会加盟)

対象：野田小学校児童

【3 取組内容】

全6回の「おどりにちゃれんじ」で地域の伝統舞踊である「野田音頭」を練習。10月26日(日)に行われた村文化祭にて発表。当日は、児童9名のほか講師を務めた三ツ甚句の会から1名、事務局2名で「野田音頭」を披露した。



【5 成果】

子どもたちは地域の文化を体験的に学ぶことができた。地域としては、文化の継承につながった。また、地域の大人と児童の交流ができた。

【6 課題や今後の展開】

保護者からも村の郷土芸能や文化芸術体験を望む声があることから、村のことをよく知る地域の人材を活用して、さらに体験活動を充実させていきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

野田村

野田村生涯学習大会

「南部大黒舞体験」

村の郷土芸能や文化の継承、団体側の後継者の育成等を目的として実施。

対象：児童生徒を含む村民全体

【3 取組内容】

野田村生涯学習大会の活動体験にて、村芸術文化協会に加盟する野田村大黒舞の会による南部大黒舞の体験を実施。広く村民を対象としたものであったが、当日会場に来ていた野田中学校の生徒がたくさん参加した。



【5 成果】

村の郷土芸能に触れ、実際に体験することで身近に感じてもらうことができた。この体験を通じて村の文化に興味を持ち、将来伝える側になることを期待したい。

【6 課題や今後の展開】

令和5年度からは小学生が参加し、野田まつりや文化祭で発表するなど、少しずつ活動の幅を広げてきた。村の文化や歴史を知るきっかけとなるような活動につなげていきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

普代村

【放課後子ども教室】

チルドレンスイーツマーケット

村の文化祭でのこどもの出番は、作品展示や舞台出演が主。地域の方々との交流やコミュニケーションも希薄で、子どもたちの賑わいも少ない。子ども教室の活動を地域に知ってもらうこと、こどもの居場所づくりを目的として実施する。

【4 実施体制】

店員：子ども教室参加児童 12名

協力：スタッフ、地域住民 8名

【3 取組内容】

放課後子ども教室のプログラムとして、村の文化祭の盛り上げ、地域の方々との交流と、こどもの楽しい居場所づくりのため、仕入れから販売までを行うお店体験の実施

主な取組	内容
企画書作成	やりたいことを共有し、企画内容をこども会議で話し合う。
店員募集	企画内容から、参加についてこどもと保護者と相談。
資金調達	商品の仕入れを資金を獲得するため、趣旨に賛同してくれそうな人に交渉。
仕入れ 値付け	獲得した資金から、商品ラインナップ、値付けを行う。いくらで売れるか。利益はどうか。
広告宣伝	お店の名前、開店日時、商品など、宣伝チラシを作成し、学校で配布
販売体験	お店のあいさつ、レジ会計、呼び込み等、シフトを組んで実施した



【5 成果】

子どもたちの「やりたい」からスタートし、準備期間もなく、初めての試みで試行錯誤の連続でしたが、こども会議により、役割分担（企画書作成、仕入れ、値付け、チラシ作成、プライスカードなど）を行い、実施することができた。当日までほんとに売れるのか、不安をよそに大盛況で完売。達成感と充実感に満ち溢れていた。来場者からも好評だった。

【6 課題や今後の展開】

今回の経験をもとに、準備期間を充実し、どこに重点をおくのか、誰に対して何を売るのか、どのように資金調達をするか、協力者を募るにはどうしたらよいかなど、どんどんこども会議をすすめ、こども会議を定番化させる。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

二戸市立二戸西小学校実践区

親子でパトロール！

【目的】

地域パトロールに参加し、地域の安心安全について考えるきっかけづくりを行う。

【対象者】

二戸西小学校5・6年生

【協力者】

上斗米地区子ども見守り隊

【取組内容】

二戸西小学校は、保護者が「上斗米地区子ども見守り隊」の一員として活動しており、自家用車に青色回転灯（通称青パト）を付け、地域を巡回している。広大な範囲にわたる学区を上斗米地区の住人、児童、保護者、教職員らで協力しながら実施している。地域防犯にむけた取り組みとなっており、この取り組みは約20年続いている。

令和7年度は、9月22日（月）と26日（金）の2日間、5・6年生の児童が本パトロールに参加した。二戸警察署と連携し、秋の交通安全運動とタイアップする形で実施することができた。

上斗米地区子ども見守り隊に協力を得ながら、青パトに乗車し、通学路のパトロールを行うことができた。



【成果】

防犯パトロール活動に参加することで、地域防犯について考えるきっかけとなった。また、改めて、自分たちの地域を確認する機会となり、地域への愛着にもつながった。

【今後の展開】

無理のない範囲で活動を継続させ、地域防犯の意識を高めるとともに、引き続き学校と地域の連携強化を図る。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

軽米町 軽米小学校

軽米小学校実践区

雑穀研究「エゴマを育てよう」

地域の産業や自然、人材を生かした体験活動を通して、実感を伴った深い学びと地域の方との交流を図るために実施した。

対象者：5年生29名、地域の方

【取組内容】

回	内容
第1回	エゴマの苗植え
第2回	エゴマの収穫 刈り取ったエゴマを束ねる
第3回	エゴマの脱穀
第4回	エゴマの搾油



《エゴマの苗植え》
地域の方が、苗を育てたり草刈りや畑の土を起こして準備してくださり、子ども達が苗植え作業を手際よく進めることができた。

《エゴマの収穫》

エゴマの茎が固いため、事前に地域の方が機械で刈り取り作業をしたものを、4・5本ずつ藁で束ねる作業を行った。はじめは慣れない手つきであったが、段々上手になり、楽しみながら作業を行っていた。



【成果】地域の方の指導により、エゴマの苗植え、収穫、脱穀、搾油までの一連の作業を体験し、地域の産業への学びを深めるとともに、働く経験の大切さも実感することができた。

【今後の展開】地域との交流や体験活動を通して、地域のよさを理解し、地域を誇りに思うことができるよう、地域の方と共に学習することを継続して実施していきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【実践区名】

九戸村 九戸小学校区

【九曜塾】

九戸村の良さを学ぶ自然体験

休日の体験学習事業として、郷土、文化、自然を体験し、地域の財産に気づき大切にしていける心を育む。

講師：地域の住民

参加者：村内の小中学生と保護者

【3 取組内容】

5月から2月まで（8月を除く）毎月1回、年間全9回の体験活動を含めた事業。月ごとに参加者を募集形式で募り、子どもたちは、自分の興味のある回に参加することができるようにした。指導していただく地域の方は、これまで小学校の総合学習でお世話になった方、村内住民で構成された活動団体、地域おこし協力隊、地元の企業などをお招きし、地域との交流も図った。

R6実施事業参照

第1回（5月）	伝統工芸製作体験 「南部ほうき」	九戸村の伝統工芸『南部箒』づくりに挑戦。
第2回（6月）	初夏の自然体験 「塩の道・わこどり山登山」	九戸村の古道『塩の道』を歩いてみよう。
第3回（7月）	自然観察の体験 「雨堤の学習」	九戸村の秘境『雨堤』で睡蓮とモリアオガエルを見に行こう。
第4回（9月）	歴史学習 「黒山の昔穴遺跡の学習」	九戸村の1,000年前（平安）の歴史を現地を見ながら学ぼう。
第5回（10月）	農業体験 「さつまいも堀り」	三種のさつまいもの収穫体験&食べ比べ。
第6回（11月）	秋の自然体験 「キノコ採り」	九戸村の秋を楽しもう。
第7回（12月）	料理体験 「うどん打ち」	うどんを1から作って食べてみよう。
第8回（1月）	スキー体験学習	青森県六戸町との合同スキー交流会。
第9回（2月）	冬の自然体験 「雪遊び」	かんじき体験や竹スキーで遊ぼう。



【5 成果】

子どもたちが九戸の魅力を知ることでき、地域住民との関りを持つ機会にもなった。

【6 課題や今後の展開】

- ・参加者の確保が大きな課題（内容に対して参加者が少ない）
- ・小学生だけでなく中学生にも積極的に参加してもらい、文化系の部活動の選択肢を広げたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【実践区名】

一戸町/一戸南小学校区

【1 タイトル】

一つになるキーワードは両校の宝

【2 背景・目的】

一戸南小学校と旧小鳥谷小学校が統合され、両校が大切にしてきた伝統芸能を継続的に学ぶことで、児童が地域の歴史文化に親しみ、郷土への愛着と誇りを育む。

【4 実施体制】

学校、保護者、地域住民（伝統芸能の指導者）

【5 成果】

2つの伝統芸能を学ぶことで、児童が地域文化の多様性を実感し、郷土への敬意や誇りが一層強まった。

【3 取組内容】



【6 課題や今後の展開】

旧両校の保存会に依存しているため、指導者の高齢化や負担過多が懸念され、持続可能な体制づくりが求められる。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立県南青少年の家

4泊5日程度の中期自然体験型の事業

「水と緑のフレンドシップ」

子どもの生活のデジタル化・屋内化、自然体験や仲間と協力する機会の減少、集団生活や直接的コミュニケーションの経験不足という現代的課題から、自然の中でのダイナミックな活動を軸とし、挑戦、失敗、工夫、協力などを通して、参加者の成長を計画的に促す「教育型事業」として実施した。

対象：岩手県南地域に所属する小学校5・6年生並びに中学校1～3年生

【取組内容】

- ・ プレキャンプ：低山登山、テント設営練習、ミーティング、薪割り、野外炊事等
- ・ 本キャンプ：テント設営、登山計画、自主行動型登山、沢登り、キャンプファイヤー、創作活動等

中長期キャンプの場合は負荷が強い活動が続くため、参加者の様子を事前に知ることで、適切な計画のもと実施することができると考え、本キャンプ前に1泊2日のプレキャンプを実施。



【成果】複数回実施することでプレキャンプの失敗や経験が生かされ、自主的な工夫や協力が生まれたり、達成感や充実感を得たりすることができた。教育的なねらいを持ったプログラム構成と、毎日の自己の振り返り活動により、参加者から「自分の中での変化や成長、仲間への気づき」が語られ、回を重ねるごとに質的な高まりがみられた。

【課題や今後の展開】本事業は主体性・協働性を育み、心身の健康や自然環境の大切さの理解を深める点で有用且つ不可欠である。今後も安全管理や、体験活動をサポートする地域の人材(団体)の発掘・活用・連携を進めていく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立県南青少年の家

1泊2日の自然体験・創作・交流体験型事業

「自然ワンダークラブ」

異年齢で構成される集団でさまざまな活動を体験することにより、岩手の自然や風土についての理解を深め、仲間・自然・岩手を大切にすることを育てようとして「体験型事業」として実施した。

対象：岩手県内の小学校4～6年生

【取組内容】

- ・ テント泊、野外炊事、ナイトハイク、ハイキング（低山登山）等

異年齢の参加者により高学年のリーダーシップを育むとともに、自然に興味を持ち、体験活動を楽しむことで自尊感情を育み、レジリエンスを高める事業として実施した。



【成果】 「楽しむ」「成長」「相手・自分・自然を大切に」というめあてを共有し、アイスブレイクを通して相互の関係を構築して活動できたことで、仲間と声をかけ合ったり、サポートし合ったりする様子が随所に見られた。日々のふり返りにも、ねらいに沿った感想がいくつも書かれていた。

【課題や今後の展開】 自然体験に関心を持つ参加者に参加は偏り、未経験者層へのアプローチは依然課題である。市町の教育委員会や社会教育担当等との連携を強化することが体験活動の充実に必須と考える。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立県南青少年の家

親子対象の自然体験または創作・交流型事業

「かるがも親子体験教室」 ～かるがも親子ファミリーキャンプ～

・親子の共同体験や交流活動を通じ、親子の絆を深めるとともに子育てをする保護者同士の仲間づくりを促進する。

・親子で防災について考え、普段の生活から防災を意識する契機とする。

対象：小学校1～3年生の子どもをもつ家族

【取組内容】

- ・ テント泊、野外炊事（防災炊飯含む）、焚き火、ナイトハイク、選択活動（創作活動・ニュースポーツ）

地元企業との連携により提供いただいた菌床しいたけのもぎとり体験と、親子のふれあいを楽しみながら「キャンプカ＝防災力」を保護者に理解させる事業として実施した。



【成果】 「キャンプカ＝防災力」を意識したプログラムにより、親子でキャンプを楽しみながら、防災意識を高めることができた。体験を一方向的に提供して終わりではなく、参加者が「自分たちでもできる・やってみたい」と、一歩踏み出せるような内容にすることができた。新聞社に取材を依頼し、体験活動の楽しさを県民に広く伝えることができた。

【課題や今後の展開】 低学年の子どものいる家庭にとっては調理が滞る場面も見られたので、高さの違う台を用意する等工夫が必要だと感じた。親子による自然体験活動はニーズの高い事業である。より多くの家族に提供するために複数回実施していく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立県南青少年の家

「放課後子ども教室指導員・児童クラブ職員等合同研修会（一関市）」

県南教育事務所管内社会教育担当者研修会の参加者から、子どもと指導者の良質な関係性構築と問題解決能力の育成のための「指導者育成プログラム」の指導依頼を受け実施したもの。

対象：放課後子ども教室の指導員や見守り職員、児童クラブの職員、市民センター職員等

【取組内容】

- 講話、実技（プロジェクトアドベンチャー）体験

毎年講義中心だったが、今年度は実技も取り入れ、職員自身が体験することで体験活動の効果や必要性を感じてもらった。



【成果】参加者から「今日から実践します」「子どもとの関係づくりのコツをいただいた」「実践してみて楽しかったので地区の行事などで集まったときにぜひやってみたい」など高評価をいただいた。講義の後に、参加者自身が楽しみながら体験する”参加型研修会”としたことで、体験活動の重要性を理解させることができ、各施設における「体験活動の充実」につなげることができた。

【今後の展開】参加者の様子や事後アンケートからも、ニーズは十分あると感じられた。市町職員や教育振興運動担当者、地域の子どもの居場所関係の指導員に体験活動の指導に対する困り感があると感じられた。市町・地域において「体験活動の充実」をさらに拡充させていくために、担当者会議でのアプローチ等連携を強化していく。また、本研修会で取り扱った内容のアウトカム調査を行い、効果を明確にするとともに改善をしながら、社会教育施策の推進につなげていく。

陸中海岸青少年の家

誰一人取り残さない学びの保障

不登校及び引きこもり傾向にある児童生徒を対象とした体験活動機会の促進

連携機関

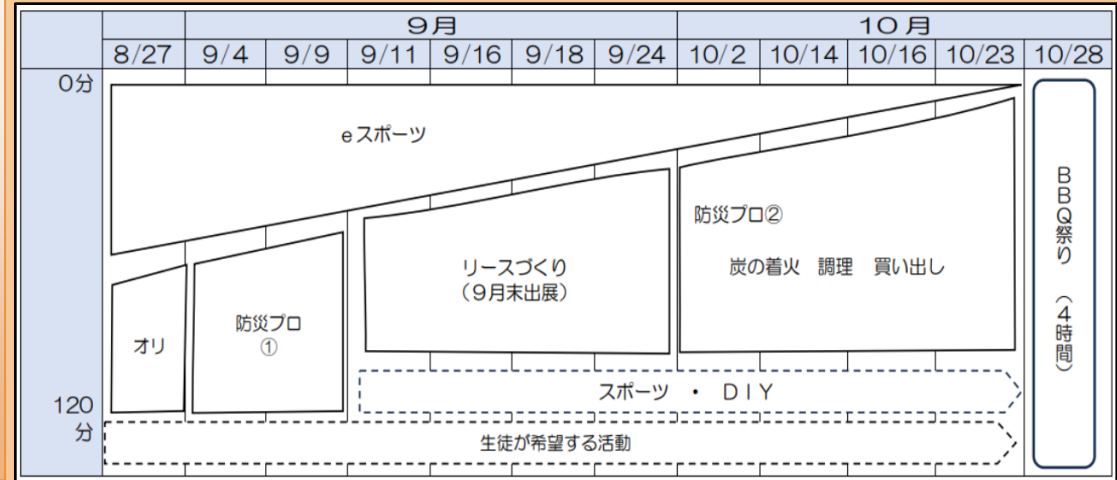
- ・フリースクール(宮古市)
- ・教育支援センター(山田町)

【取組内容】



○連携機関の願いに基づいた助言及び指導

企画・計画段階から県派遣社会教育主事が参加し助言・指導を行った。また、連携先担当職員と打ち合わせ等も行い、活動及び指導の計画立案も支援した。その資料を生徒及び保護者に示すことで、見通しをもたせる効果にもつながった。



【成果】

- ・対象の児童生徒に、より多くの体験活動機会を提供することができた。
- ・連携機関の職員を支援することができた。
- ・対象児童生徒の学びに対する意欲化を図ることができた。
- ・本事例の実践をベースとし、実践事例対象以外の多くの児童生徒に対しても、創意工夫を重ね体験活動の充実を図ることに取り組んでいるものであること。

【課題や今後の展開】

- ・意図的及び計画的な指導の充実
- ・指導内容及び担当職員の多様化
- ・新たな連携機関及び対象児童生徒の拡充

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

県北青少年の家

【1 タイトル】

体験活動の要「五感」を耕す

「たき火」活動のススメ

【2 背景・目的】

質の高い体験活動のプログラムとして「たき火」活動を開発し、子どもや家族対象の事業で実践するとともに、一連の活動をパッキングし、市町村の研修会や体験事業、PTAや子供会等の行事で気軽に利用できるようにした。これらにより、質の高い体験活動の促進と普及を図る。

【4 実施体制】

事業参加者（子ども、家族）、市町村社会教育担当者、PTA、子供会育成会、学童クラブ、地域子ども教室等

【5 成果】

- 小グループや家族で取り組む活動により、どの子もお客様にならず主体的に活動する様子が見られた。
- 安全性を高める配慮や工夫により、安心して活動に集中することができ、五感を発揮する活動のよさを保護者や指導者に実感してもらうことができた。

【3 取組内容】

体験活動のキーワード「五感」を耕す最も効果的な活動として、昨年度から「たき火」の実践を通してプログラム開発を行った。

柴刈り（薪集め）→薪の準備→火起こしやマッチ擦り→火を育てる→調理→食事→後始末等、一連のたき火に関わる活動は、五感すべてが発揮され、効果的な体験活動となっている。

- 一連の活動をパッキングし、誰でも気軽に利用できるプログラムとした。また、出前講座で利用できるよう機動性を持たせた。
- 取り扱いが簡単なバウルー（ホットサンドメーカー）を使った調理により、安全でバリエーションが楽しめる活動になっている。
- 教育事務所、市町村担当者会議等で活動を周知し奨励した。



「たき火」活動実施事業

- ・親子でデイキャンプ（日帰り）
- ・ワンデーキッズキャンプ（日帰り）
- ・サマーチャレンジキャンプ（4泊5日）
- ・にこにこキャンプ（1泊2日）

研修利用での「たき火」活動実施団体

- ・葛巻保育園
- ・奥中山学童
- ・二戸市教委生涯学習課

出前講座での「たき火」活動実施団体

- ・普代村教育振興運動協議会
- ・一戸南小学校PTA（荒天により内容変更）
- ・普代小学校6年PTA（1月実施予定）

【6 課題や今後の展開】

- ・五感を発揮する体験活動の周知と奨励をさらに進める。
- ・火に関わる活動であることから、自己防衛力、危機管理能力や、防災意識の高まりが期待できる。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

県北青少年の家

【1 タイトル】

県北アウトドアアカデミー発足

【2 背景・目的】

子どもの体験格差が大きな問題となっている。当施設でも体験活動の事業費が無く、費用を全てを参加費から賄うため、高額になる。このような問題の解消のため、体験活動の支援サークルを立ち上げ、無料で誰でも気軽に参加できる体験活動を提供する。

【4 実施体制】

サークル会員

【3 取組内容】

県北青少年の家を拠点に、子ども食堂の体験活動版的な気軽に参加できるイベントを提供するサークルを立ち上げた。(参加費は原則無料)サークルが青少年の家の利用者として申請許可を受け、イベントを運営する。
イベントの周知は、県北青少年の家のインスタグラム等SNSやチラシの配架等で行う。

1回目のイベントとして、ペルセウス流星群の時期に合わせて観察会を開催した。直前の告知にも関わらず、ちょうど帰省した家族等26名が参加して、プラネタリウム鑑賞の後、つどいの広場にマットを広げ、流星群や星座観察、望遠鏡での月や惑星の観察を楽しんだ。流星が何度も流れて歓声が上がリ、特製「流星フランク」がふるまわれるなど、楽しい観察会となった。

今後予定されているイベント

- ・森の昆虫採集
- ・材料持ち寄りのたき火BBQ
- ・季節の星空観察会
- ・乗れない子の自転車教室
- ・スノーシューで森探検(アニマルトラッキング)



流星群観察会のチラシ

【5 成果】

○参加費無料、申し込み不要など気軽に参加できるイベントの仕組み作りができ、サークルの活動を開始することができた。

【6 課題や今後の展開】

- ・必要な人に届く周知の方法やネットワークづくりを工夫する。
- ・協賛などによる活動資金等の捻出を模索する。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

県北青少年の家

【1 タイトル】

主体性をはぐくむ体験フィールドづくり

【2 背景・目的】

決められた研修プログラム以外に研修者が自由に体験したり遊んだりできるフィールドを設定することにより、主体的な活動や挑戦を促すとともに、体験活動の幅を広げる。

【4 実施体制】

研修者、家族等

【5 成果】

- ご褒美的に自由遊びができるため、主の研修活動にもより一生懸命取り組む子どもたちが見られた。
- 安全で自由なフィールドや居場所を設定したことで、普段できないようなダイナミックな遊びを提供できた。
- 気軽に遊びに訪れる家族が増え、安心して子どもを遊ばせることができると好評である。

【3 取組内容】

宿泊研修の指導者や子供会育成会には、余裕を持った計画を勧め、失敗してもやり直しができる時間を保障するとともに、余裕で生まれた時間に、野遊びなど自由に楽しめるフィールドや活動、居場所を用意した。

主催する体験事業でも、野遊びの自由時間をたっぷり設け、出会った友達と遊びを通してふれあいを深めるようにした。

親子事業にも野遊びタイムを設け、家族であそびに来ることができる案内をし、気軽に活用してもらえようようにした。



厳選した本やボードゲーム、ウクレレ等を置いた居場所「やまとぎんがのとしょかん」



ハイジブランコ



ハンモック



スラックライン



シャボン玉



木登り



ボルダリング

【6 課題や今後の展開】

安全の配慮を十分行いながら、体験フィールドを充実させていきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

県北青少年の家

【1 タイトル】

市町村との協働による体験活動の充実

【2 背景・目的】

便利な生活と引き換えに生活体験が画一化し乏しくなっている子どもたちに、人と触れ合いながら豊かな社会体験を経験させたい。

【4 実施体制】

市町村教育委員会、普代村商店街、地域住民等

【5 成果】

普代村との連携協働により、施設だけではできないダイナミックな自然体験を提供できただけでなく、地域のよさを味わい、人々の温かさにふれながら、大変貴重な社会体験を経験させるができた。

【3 取組内容】

4泊5日の主催事業「サマーチャレンジキャンプ」の中2日間を普代村にお世話になり、社会体験を含む様々な体験活動を行った。

普代村での主な活動

1日目 普代村商店街での買い物（夜のBBQの食材）
震災学習（普代水門見学と講話）
普代浜でビーチコーミング～番屋での昼食
みちのく潮風トレイル踏破（黒崎漁港～黒崎展望台）
黒崎キャンプ場でのキャンプ、たき火BBQ

2日目 朝食（商店街のパン屋さんからの提供）
三陸鉄道貸切列車（ポケモン列車）で移動 大沢橋梁大漁旗の見送り

商店街では、精肉店、鮮魚店、製菓店等をグループで訪問し買い物をした。肉の量り売りに感激する子、魚の調理を相談する子、バスの運転手にアイスを届ける子など、活発に地域の方とふれあいながら買い物を楽しんだ。

普代水門での震災学習は、津波の規模を実感するとともに、水門を動かした消防隊員の苦労や切迫した状況など、貴重な話を聞くことができた。

子どもたちは、普代浜の活動やトレイルの踏破、展望台からの景色など、普代の大自然のすばらしさを味わうとともに、地域と人のよさにたっぷり触れることができた。三鉄で大漁旗の見送りを受け、子どもたちはとても喜び感動していた。



【6 課題や今後の展開】

市町村との連携協働を益々深め、子どもたちに地域のよさやふれあいの大切さを味わわせる体験活動を考えていく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立野外活動センター

主催事業

「ドラマチック海遊塾」

【目的】

初めて集う仲間たちと4日間ともに生活を送ることで、協力することの大切さや仲間を思いやる気持ちを育み将来を担う子供たちの成長の一助とする。

【参加者】

岩手県内および宮城県気仙沼市の小学5年生～中学3年生 合計29名
高校生ボランティアスタッフ3名

【主な活動内容】

【1日目】

- ・ライフジャケット体験（海水浴）
- ・貝がら探し



2泊目までは館内泊



【2日目】

- ・いかだ体験
- ・ジェルキャンドル作り（1日目の貝がら使用）
- ・ボードゲーム（防災かるた、SDG's 虹色かるた、陸前高田方言トランプ）
- ・ナイトハイク星空観察



【3日目】

- ・SUP体験
- ・野外炊事（焼きそば）
- ・キャンプファイヤー



3泊目はテント泊



【4日目】

- ・ホットドッグ作り



【成果（参加児童の感想）】

- ・普段はできないようないかだ体験やキャンプファイヤーができてとても楽しかった。
- ・知らない人と友達になることができた。協力のすごさを知った。

【課題】

- ・暑さ対策（館内にエアコンがないため）
- ・リピーターと新規参加者との経験値の違い

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【公所名】

県立図書館

【タイトル】

就労体験実習

【目的】

職場体験学習やインターンシップの受入れなど、学校教育の支援を行うもの

【対象者】

児童生徒、学生

【取組内容】

- 1 職場体験学習（中学校）
 - カウンター業務、書庫出納、配架整理等、多岐にわたる図書館の業務を体験
 - 本が好きで図書館での実習を希望したとの生徒が多く、意欲的に業務を学ぶ
 - 体験後は、「お客様へ笑顔で対応することが大切だと改めて感じた」「司書という職業は人と人とをつなぐ大切な仕事だと学ぶことができた」といった感想もあり
- 2 インターンシップ（高校、特別支援学校、大学）
 - 催事受付、おすすめ本を紹介するPOP作成、マイクロフィルム巻き直しなど実践的な業務を体験
 - 職員の話に興味深そうに聞き、積極的な姿勢で実習に臨む姿が見られる
 - 休憩時には館内を巡り、児童コーナーで行っていた催事に挑戦するなど、実習の時間外でも図書館を満喫している様子が見られる



【令和7年度実績（令和7年12月末日現在）】

- | | | |
|-------------------|-------|-----------|
| 1 職場体験学習（中学校） | 7校20名 | 1日又は2日 |
| 2 インターンシップ（高校、大学） | 6校9名 | 1日～3日、2週間 |

【今後の展開】

引き続き、学校からの依頼に応じ、就労体験実習に協力していく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【公所名】

岩手県立博物館

【1 タイトル】

たいけん教室～みんなのためそう～

【2 背景・目的】

工作、実験などから、博物館に対する興味・関心を呼び起こす契機や展示資料の理解の一助となることを目的とする。

【4 実施体制】

主に一般県民（親子【幼児から小学生】）を対象（必要に応じて抽選。）

【3 取組内容】

たいけん教室のスケジュール表（4月～3月）

※1月4日（土）のこのまはら祭りの特別開催は12月28～30日におこないます。



【5 成果】

過去に参加応募者の多かった活動内容については複数回実施し、ニーズに応えることができている。

年中行事や季節を感じられる内容を、博物館ならではのプログラムとして提供することにより、高評価を得ている。

【6 課題や今後の展開】

限られた人員の中で、要望全ての受け入れは困難であるが、多くの県民に対し良質な企画を提供していく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【公所名】

岩手県立博物館

【1 タイトル】

博学連携事業

(岩手県立盛岡峰南高等支援学校)

【2 背景・目的】

学校と博物館とで連携した取り組みを行うことにより、博物館としての学びの提供とともに体験学習室の充実を図る。

【4 実施体制】

対象者：生徒・教職員

【3 取組内容】

体験学習室装束及び資料養生用マット・白布等のクリーニング染料を利用した服飾資料（雫石あねこ装束の裂き織の帯）の制作 等



【5 成果】

- ・普段の授業とは違う色々な知識を得ることができた。
- ・様々な縫製技術を身につけることができ、オリジナルの作品を作り出せた。
- ・生徒が製作を通して充実感や達成感を得られた。

【6 課題や今後の展開】

<課題> 臨機応変な対応、情報発信、館内外での理解を深める など

<展開> 成果物の活用充実、教員・学芸員・地域人材の融合、博物館に対する理解を深め、活用する能力（ミュージアムリテラシーの育成） など

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【公所名】

岩手県立博物館

【1 タイトル】

博学連携事業
(岩手県立盛岡青松支援学校)

【2 背景・目的】

学校と博物館とで連携した取り組みを行うことにより、博物館としての学びの提供を図る。

【4 実施体制】

対象者：児童・生徒・教職員

【3 取組内容】

各部門学芸員による全5回のプログラム。

	テーマ【部門】
第1回	日本刀入門【歴史】
第2回	校庭の植物観察【生物】
第3回	<u>テーマ展「いわての酒造り」展示 解説会【民俗】</u>
第4回	土器の文様の秘密【考古】
第5回	<u>化石のレプリカづくり【地質】</u>

※下線は来館により実施



【5 成果】

生徒たちに対し、実物に触れる機会が多く設けたこと。制作・採取活動などもが行われ、満足度の高いリレー講座となった。

【6 課題や今後の展開】

次年度においても開催打診を受けたこと。回数が減ることから、担当部門については協議が必要。

県立博物館では種々の体験プログラムをご用意しております。こちらも活用いただけますと幸いです。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/education/data/jiturei.pdf>

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立美術館

教育普及事業①

■美術普及事業

(1)スタジオプログラム

- ①オープンスタジオ
- ②アートデオヤコ

①誰でも気軽に制作を体験できるワークショップ。大人でも十分に制作の楽しみを体験できる内容となっています。
②親子で遊びながらアートを楽しむワークショップで、身近な素材と触れ合い、自由な創造力を引き出そうとするものです。

対象者：①どなたでも（各回20名×8回）
②未就学児とその家族（各回親子10組）

【取組内容】

- ①夏、冬の年2回開催する気軽に制作を体験できる小学生以上大人向けのワークショップを開催。
- ②毎月1回年間全12回の素材体験型事業で、親子一緒に参加する幼児向けワークショップを開催。
身近で扱いやすい素材を用い、素材に親しみながら、表現することの楽しさを親子一緒に作業する中で味わう体験の場を提供する。ゆったりとしたスタジオスペースの中で、普段家庭ではなかなかできない思い切った表現活動ができると好評。

月等	テーマ	内容	参加者
①	夏 世界に1つだけの石けん	石けん素材の粘土を使ってオリジナル石けんを作る	161名
	冬 モノノカタチスタンプ	意外な材料でスタンプを作り、冬をイメージしたポストカードを作る	143名
②	4月 ながーい線 タワー！タワー！タワー！	様々な画材を使って選を描く 紙コップ1組500個を自由に積み上げる	6組 16名 86名
	5月 フワリと浮かぶ『鳥の風づくり』	色紙をデコレーションしてかわいい風を作る	124名
	6月 ながーい線	様々な画材を使って選を描く	8組 17名
	7月 どんどんねんど	ちぎる、丸める、たたく、積む、踏むなど粘土の感触を味わう	8組 26名
	8月 同上		7組 17名
	9月 マジカルシャドウ	身近な物や体に光をあてて影を作り、色のついた光と影を楽しむ	5組 13名
	10月 同上		4組 10名
	11月 光るぶんしん	いろんな格好で段ボールを切り抜いて蛍光色で塗り、暗がりの中で光をあてて楽しむ	7組 19名
	12月 同上		7組 21名

【オープンスタジオの様子】



【アートデオヤコの様子】



【成果】 ①実際に制作してみるという実技を通じ、美術に親しむ体験をすることができた。
②子どもたちは親と一緒に参加することができ、ゆったりとしたスタジオスペース内で心置きなく制作作業を体験し、ものを作る喜びを体験するとともに、親子で協同作業することにより、作品を作り上げる喜びを親子で共有することができた。

【今後の展開】 美術館が単なる展示鑑賞の場だけでなく、美術に親しみ美術を体験することができる場として、美術を通じ幅広く多くの方々にご利用いただく施設として地域貢献しているものと考えられる。美術に親しむ機会を提供する貴重な事業であることから、今後も継続して実施していきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立美術館

教育普及事業②

来館者対応事業（造形体験）

■美術普及事業

(2)美術プログラム〈実技体験講座〉

技法・材料体験ワークショップ

■来館者対応事業

(3)団体プログラム

造形体験（特別支援学校・特別支援学級・障がい者支援施設対象）

(2)様々な技法や材料に触れる実技体験を通じて、美術により親しんでいただくことを目的に実施。

(3)美術館の用意した造形プログラムにより、簡単な制作体験をしていただくことを目的に実施。

対象者：(2) 高校生以上一般（各回15名×5回）

(3) 特別支援学校（学級）の児童生徒、障がい者支援施設利用者

【取組内容】

(2)毎年、様々な美術の分野について、各分野の作家等を講師としてワークショップを実施。実際に制作活動をしている現役作家から直接指導を受けることができ、好評で例年応募者多数。

(3)学校等団体の希望に応じ、美術館の用意する造形プログラムによるワークショップを実施。学校等の希望する日時に対応できるよう、柔軟に調整し実施している。

月等	テーマ	内容	参加者
8月	日本画	講師：菊池咲氏（日本画家）	14名
10月	彫刻×舞台芸術	講師：長内努（館長）	16名
(2) 1月	鍍金	講師：菅川恵梨氏（鍍金家）	15名
1・2月	油彩画	講師：岩淵毅弘氏（画家）	—
2月	立体デザイン	講師：路奥英範（美術館職員）	—
月等	学校	児童・生徒	引率
5月	となん支援学校	中等部3年	4名 4名
6月	盛岡ひがし支援学校	4年生	15名 10名
6月	盛岡視覚支援学校	中学部	2名 4名
7月	盛岡ひがし支援学校	2年生	9名 6名
7月	盛岡市立大新小学校	特別支援学級	15名 3名
(3) 7月	岩手大学附属特別支援学校	中学部	17名 10名
9月	盛岡となん支援学校	小学部5年生	3名 6名
9月	盛岡みたけ支援学校二戸分教室	中学部	4名 3名
9月	盛岡市立米内小学校	特別支援学級	3名 2名
9月	盛岡となん支援学校	訪問学級	2名 4名
10月	盛岡みたけ支援学校	小学部	5名 3名

【技法材料体験WSの様子】



【造形体験の様子】



【成果】 (2) 美術の各分野の専門家が講師となることから、専門的な技法や材料に触れ、それらについて講師から直接専門的な解説・指導を受ける貴重な体験をすることができた。

(3) 児童生徒及び障がい者支援施設利用者は、美術館の用意した造形プログラムにより簡単な制作体験により、ものを作り上げる喜びを体験することができた。

【今後の展開】 美術館が単なる展示鑑賞の場だけでなく、美術に親しみ美術を体験することができる場として、美術を通じ幅広く多くの方々に利用していただく施設として地域貢献しているものと考えられる。美術に親しむ機会を提供する貴重な事業であることから、今後も継続して実施していきたい。